

## ホームページのご案内

当院ではホームページを開設し、さまざまな情報を提供しております。  
みやのわバックナンバーも公開しております。

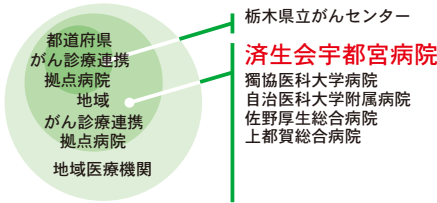


www.saimiya.com



## 地域がん診療連携拠点病院

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、地域の医療機関や他のがん診療連携拠点病院との連携を密にして、より良いがん診療を提供していきたいと考えています。当院では1階「がん相談支援センター / 医療相談・看護相談室」で、専門的知識を有するスタッフが、がんに関するさまざまな質問や相談におこたえしています。



## 地域医療支援病院

地域医療支援病院は、他の病院または診療所から紹介された患者さまに対して医療を提供していること、医療機器などを地域の医療機関と共同利用できること、救急医療を担っていること、地域の医療従事者のために研修を行っていること、などの役割があり、都道府県知事の承認を受けます。

当院は「地域と共に進化し続ける病院」のビジョンの下、急性期医療・救急医療を担い、ますます信頼される病院を目指していきます。

## リレーエッセイ

### 時々入院、ほぼ在宅



副院長

渡邊 カヨ子

日本は長寿国となり、正に「一病息災」は健康管理上も重要なことだと思います。そんな中、皆さまは「時々入院、ほぼ在宅」という言葉を聞いたことがありますか？

厚労省は、今の病院中心の医療体制では、急増する高齢者を受け入れられないと見えています。そのため、住み慣れた地域や在宅で支える仕組みが必要として地域包括ケアの体制作りを進めています。そこで出てきたのが「時々入院、ほぼ在宅」ということです。

この言葉の意味する事は、「ある程度の年齢になれば病気の一つや二つはあって当然である。具合が悪い時は、短期間入院して、後は暫く在宅で療養してください。」ということ。これはとって高年齢者は入院して、数日ベッド上で安静にするだ

けで、足腰が弱くなり転びやすくなったりします。また病院の環境は、自宅とは大分様相が違うため、勘違いや混乱してしまうことも大いにあります。

それを防ぐためには、一日も早い自宅退院ということになります。不眠や不穏があったりしても、自宅に帰ると改善することも良くあります。住み慣れた自宅は、高齢者にとっては何よりの薬と言えます。

中には、老々介護、一人暮らし、病状が不安定等でもとても心配ということもあると思います。その時は、早期に主治医や病棟の看護課長、退院支援課にご相談ください。様々な社会資源を提案することもできますので、きつとお役に立つと思います。

### ちょこっとメモ

9月1日

### 防災の日

1923(大正12)年のこの日、関東大震災が occurred. その大惨事を忘れないため、また台風被害の多い時期であることから、1960(昭和35)年に国土庁(現:国土交通省)によって地震や風水害等に対する心構え等を育成するため制定されました。関東大震災の惨事を教訓として防災意識を高めることを目的に、毎年各地で防災訓練などが実施されます。

自然災害は、いつ発生するのか予測できません。そのため事前の準備、意識を高めておくことが重要です。突然やってきた災害に立ち向かうために、常日頃から準備をしておきたいものです。



編集後記

みやのわ  
編集スタッフの  
わ



いつも「みやのわ」をご愛読いただきありがとうございます。さて、時間が過ぎるのは早いもので、思えば一年の半分が過ぎました。

夏といえば「夏祭り」「海水浴」「夏フェス」など夏ならではのイベントが沢山ありますが、この季節になると職場で必ずと言っていいほど話題に上がるのが「夏の甲子園」です。

まさに一発勝負の息をのむような試合展開、九回裏二アウトまで必死に戦い抜く彼らの姿に、私を含め魅了されている方も少なくないのではないのでしょうか。今年は体どのチームが勝ち上がってくるのか非常に楽しみな季節です。

最後になりますが、これから「夏バテ」や「熱中症」など夏ならではの病気が増える季節でもあります。皆様もお体に気をつけてお過ごしください。